

命は守られた！

私たちの取り組みで確保された安全

名古屋地本はこの間、大垣運輸区の運転士が行っている名古屋駅5番線での出区点検が危険であることから会社に申し入れを行って来ました。業務委員会（H26.9.2）を開催し会社に改善を求めてきました。しかし会社は作業の変更を行いませんでした。私たちはこれでは運転士の生命が危険にさらされるとの思いから、あらゆる取り組みを行って来ました。その一つが中部運輸局に事故が起きる前に改善をするように要請を行いました。さらに国土交通省厚労省との要請行動においても現場の実情を訴えてきました。

作業の変更される

ついに3月に入って大垣運輸区の床下点検がホーム側に変更されました。とりあえずは危険ひとつが回避されましたが、歯止めの撤去時などに触車の危険が残っています。会社は相変わらず労働組合の声に耳を貸しません。私たちは職場の安全と働く者の命を守るためこれからも奮闘してゆきます。



名古屋駅での危険な出区点検を改善せよ！ —中部運輸局で触車事故の危険性を訴える—

2月13日、名古屋地本は中部運輸局で出区点検中で触車事故の危険があることを説明し、事故が起きる前に作業の改善することをJR東海に指導してもらうように要請をしました。

大垣運輸区の運転士が名古屋駅5番線で朝5時頃に102F列車の出区点検を行うときに隣接する4番線を貨物列車が通過し触車事故の危険が大きいというものです。この作業は、昨年3月のダイヤ改正から発生しました。以前は本線である6番線を貨物列車が通過していましたが、リニアの工事のため4番線を通過することで危険が顕著しました。

名古屋地本は昨年9月2日に問題を改善するように会社に申し入れを行いました。その後、業務委員会が開催されましたが会社は「貨物列車の通過時刻を周知し注意喚起している」として作業の変更を行いませんでした。貨物の運転士からは列車と反対向きで出区点検をしているから非常に危険であると貨物会社に報告があがっていました。

問題点

- 出区点検を行う際に時速45キロで長大編成貨物列車4本が通過する
- 5番線と4番線の間には柵やロープなどの安全対策はない
- 足下は排水のホースがあり不安定である
- 安全確保のための見張り員の配置はない
- 貨物列車は後ろから迫ってくる状況である
- パンタグラフの在り確認をする場合には漏れからはみ出してしまふ
- JR貨物会社の運転士もJR東海の運転士も危険を訴えている
- 作業要領には危険な場合は床下点検を省略できると書かれている

働いている者が危険と感ずることが一番の危険なのだ

運輸局からは「指導はできないがJR東海に問題があつたということは伝える。個人的には昔から危険であると感じる。貨物列車はダイヤ通りに運転することは難しいから、その時間のみを気をつけたい」というものではない。現場にいる者が危険と感ずっていることは大きなことである」と話されました。

名古屋駅5番ホーム、隣の4番ホームを貨物列車が通過します。安全柵も危険を回避するロープすらありません。JR東海の運転士のみならず貨物会社の運転士からも危険性が指摘されています。

